

キャラクター名	プレイヤー名
レージュ・ヴェルステンド	

種族	ナイトメア	種族特徴	異貌、弱点[土、銀+2]		
生まれ	魔動機師	性別	おとこ	年齢	21
冒険者Lv	9	経歴			
経験点	2390				

技	9	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	9	7		25 + 1	4				
体	9	敏捷度	8	7		24 + 1	4	マジテック	6		
		筋力	6	4		19	3	スカウト	7		
心	12	生命力	2	6		17	2	エンハンサー	5		
		知力	6	12		30 + 2	5	アルケミスト	2		
		精神力	8	7		27	4				

戦闘特技		能力値	備考
トレジャーハント	2120p		p
ファストアクション	2123p		p
精密射撃	1B30 p		p
両手利き	1B32 p		p
二刀流	1B30 p		p
射手の体術	1B29 p		p
武器習熟A/ガン	1B31 p		p
			p
			p
			p
			p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
汎用蛮族語	○	○
魔動機文明語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術	
キャッツアイ	
ガゼルフット	
ビートルスキン	
アンチボディ	
リカバリィ	
パークメイル	
パラミス	

技能	基本	基本	基本	基本追加
	レベル	命中力	回避力	ダメージ
ファイター	0			
グラブラー	0			
フェンサー	0			
シューター	9	13	13	12

鎧と盾		必要		
ランク	筋力	回避力	防護点	
鎧	スプリントアーマー	15		5
盾				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				
回避技能	シューター	合計値	13	5

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12												
								3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
ジェザイル 射程50m,装填数3	2H	10		2d+ 13	10	12														
ヴェルステンドスパイス 【不思議金属加工】射程10m 装填数8 命中+2	1H	5	1	2d+ 14	10	12														
ヴェルステンドスパイス 【不思議金属加工】射程10m 装填数8 命中+2	1H	5	1	2d+ 14	10	12														
デリンジャー 射程10m,装填数2	1H	1	1	2d+ 14	10	12														
デリンジャー 射程10m,装填数2	1H	1	1	2d+ 14	10	12														
トラドール 射程30m,装填数3	2H	5		2d+ 13	10	12														
デリンジャー 射程10m,装填数2	1H	1	1	2d+ 14	10	12														
デリンジャー 射程10m,装填数2	1H	1	1	2d+ 14	10	12														

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 m	25 m	75 m	2d+ 13	5	46

魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 0/X	2d+ 11	2d+ 11	2d+ 14	47

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
魔動機術	6	11			

装備品	説明
頭	ローティングスフィア OP: タゲサ・エイド・マナサ
耳	信念のリング DG
顔	知力の腕輪 DG 割らない
首	インジェクター スカポ入り
背中	ローティングスフィア OP: ローダー・SG
右手	敏捷の指輪
腰	ガンベルト 弾12
足	パレットスリンガー 弾12
その他	器用の指輪

装備品	説明
左手	器用の指輪

その他メモ	自動失敗
<p>生まれは非常に裕福で伯爵家の長男として生まれるが、怠み子であったため地下室へ幽閉され外に出ることを許されることはなかった。そして長き年月が過ぎた15の時、強制的に家から無一文で追い出され、家無しとなる。</p> <p>唯一褒められたのが、生まれつき持っていた美しい声であった。詩人を真似て路上で歌うことで生きるための糧を稼ぐこととなる。</p> <p>その歌に聞きほれたとある一人の冒険者は、彼を保護し、以後手元に置いていたらしいことを学ばされた。</p> <p>その時、やけに気品ある雰囲気、冒険者はある伯爵家の名前を挙げる。それは彼の肉親の名前であった。</p> <p>話によれば、レージュが出て行って数年後に謎の奇病に罹り一族は亡くなったらしい。</p> <p>彼は自分を捨てた親が無残な死を遂げたことにほくそ笑んでいたが、やがてその謎の奇病とやらが気になった。</p> <p>調べていくうちにどうやら魔法文明期に魔法王たちの手によって発明された「魔法生物」が原因ではないかということもわかる。</p> <p>冒険者の元を離れ、自分は魔法文明期の事をよく知る者を訪ねようとした。それがクロアルシャであった。</p> <p>だが既にクロアルシャは故人とされ、息子が生きていたということを知った彼は、半ば強引に彼の屋敷に押し掛けることになる。</p> <p>隠居後にこんなうとうといことになるとはと肩を軋めるラスティではあったものの、とある条件下によって住み込みで身の回りの世話をさ</p>	<p>チェック</p> <p>□□□□⑤</p> <p>□□□□⑩</p> <p>□□□□⑱</p> <p>□□□□⑳</p> <p>□□□□㉕</p> <p>□□□□㉙</p> <p>□□□□㉚</p>

